

東京都北区中里貝塚 保存活用計画策定委員会 第5回会議 議事要旨

日時：平成30年9月21日（金）13:00～15:00

場所：北区飛鳥山博物館 講堂

【出席者】

<委員>

阿部 芳郎 委員長	石川 日出志 副委員長
吉村 晶子 委員	松本 晴光 委員（代理出席：議波壽男）
山田 和夫 委員	堀江 正郎 委員
佐々木 富美子 委員	山口 宗彦 委員

<オブザーバー>

伊藤 敏行 東京都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理

<区関係理事者>

野田 企画課主査（企画課課長代理）	佐野 道路公園課長
山上 土木政策課主査（土木政策課長代理）	

<事務局>

田草川 教育振興部長	野尻 飛鳥山博物館長	鈴木 事業係長
中島 学芸員	牛山 学芸員	安武 学芸員

【次第】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題
 - （1）計画書構成案について
 - （2）本質的価値ほかの再検討
 - （3）保存活用の基本的な指針（大綱）
4. 報告
 - （1）中里貝塚委員会だより（かわら版）の発行
 - （2）地元勉強会等の予定
 - （3）ワーキンググループの進捗報告（7/30、9/13）
5. その他
6. 閉会

【配付資料一覧】

1. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第5回会議次第
2. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 席次表
3. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 委員名簿
4. 議事関係
 - 資料1 『中里貝塚 保存活用計画書』の目次構成案と各回の委員会の主な検討箇所
 - 資料2 史跡中里貝塚の本質的価値の再検討
 - 資料3 保存・活用に向けた基本方針（大綱）
 - 資料4 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 第1号
 - 資料5 保存活用計画策定のスケジュール（案）
 - 資料6 ワーキンググループの進捗報告
5. お知らせチラシ 貝塚史跡整備の視察について

【傍聴人】

傍聴人 2 名

【議事要旨】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題

<議題（1）計画書構成案について>

○事務局 一資料説明一

○委員長

これまでの委員会の経過と、計画書の構成案を照らし合わせて説明いただいた。今後は、この構成案に沿って議論を進めていくということをご確認いただければと思う。

<議題（2）本質的価値ほかの再検討>

○事務局 一資料説明一

○委員

4ページ目の「B. 史跡指定地外」の「②本質的価値に準ずる要素」の中で、貝層の剥ぎ取り標本や出土遺物が挙げられているが、もともと指定地内にあったものなので、この分類で大丈夫かどうか。また、貝塚が残されている地形情報、地形環境といったものも含まれてくるのでは、と感じたので、他史跡の分類も参照いただきながら、再確認してほしい。

○オブザーバー

本質的価値の検討が、この保存活用計画の策定において、一番重要となり、ここで抽出された本質的価値を保護して、この価値を再現したり、展示したり、表現することが求められる。中里貝塚の場合は、本質的価値が貝層で、地下に埋もれた状態になっているので、どう活用していくか、という点が重要になってくる。また、社会的価値の部分では、東側の上中里2丁目広場での利活用状況やその価値について、あまり記述がないので、再検討してほしい。

○委員

史跡指定地内の構成要素の分類について、東側の上中里2丁目広場と西側の中里貝塚史跡広場とでは、それぞれ様相が異なるので、分けて整理したほうが良いかもしれない。

<議題（3）保存活用の基本的な指針（大綱）>

○事務局 一資料説明一

○委員

史跡の活用に向けて、貝塚を展示物として見た場合に、「ただ貝があるだけ」では、一般の人は興味を持たないように思う。貝塚を見て、そこから色々な方向に興味湧いてくるような展示にする必要があると思うので、いかに知的好奇心を抱かせるかという視点で活用を考えなければならないと思う。

○委員長

貝塚を入口として、縄文時代の社会全体を理解するきっかけとして活用することは可能だと思う。

○委員

展示施設も必要になると思うが、経済効果なども考えると、今後の運営や費用対効果も含めて、しっかりと検討してほしいと思う。

4. 報告

<報告（1）中里貝塚委員会だより（かわら版）の発行>

○事務局 一資料説明一

○委員

かわら版の発行は、地元の人達が情報を得る手段として、とても役に立つと思う。今回の保存活用計画においては、今の史跡の場所を子ども達や地域住民に活用してもらい、そして活用を広げていくことが必要だと思う。また、学校教育の中で、こういった日本一の貝塚があるのだということを説明できる場を作っていただきたい。

○委員

学校教育においては、整備の前段階から参加して、子ども達と一緒に史跡の案内板を作るなど、自分たちで情報発信の内容を考えることができるような関わりを持てると良いと思う。

<報告(2) 地元勉強会等の予定>

○事務局 ー資料説明ー

○委員

地元では、史跡について知らない人が多いので、今後も現地見学会などが開催されれば、参加したい。そして、それぞれの参加者が史跡のすばらしさを他者に発信できるようにする必要があると思う。

○委員長

現地見学会や勉強会の開催案内については、今回、「かわら版」という情報発信ツールができたので、大いに活用して、地域の人達を巻き込むかたちで史跡の活用を図ってほしい。

<報告(3) ワーキンググループの進捗報告(7/30、9/13)>

○事務局 ー資料説明ー

○事務局 ー貝層のトレンチ断面の3D映像について説明ー

○委員長

貝層について、実際に現地で4.5m掘り下げて展示するのが一番理想的だが、物理的にはかなりハードルが高いので、3D映像などで疑似体験してもらうのは1つのアイデアになる。

○事務局および模型製作者 ー2種類の地形模型の説明ー

○委員

今回の模型は、垂直方向と水平方向の比率が1:1だが、武蔵野台地などの高低差を強調するのであれば、比率を変えたほうが分かりやすいかもしれない。

○委員

中里貝塚のあるこの場所が、様々な条件が整った絶妙の立地にあった、ということが理解できる素材として、この模型を活用してもらえればと思う。

○委員長

千葉県側の貝塚の模型もあると、ハマ貝塚とムラ貝塚とを比較できて、とても説明しやすいと思う。

○委員

中里貝塚は800年続いた貝塚なので、貝塚自体の変遷や周辺の集落の変遷などを時代順にGIS等で

映像表示できると、より分かりやすいと思う。

○委員

以前は、駅から遠いと思っていたが、JRの駅から徒歩15分くらいで行ける場所に、これだけの遺跡が残っているということは、逆にすごいことだと思う。

○委員長

今、判明している事柄だけで整備をするのではなく、分かっていない部分を調査・解明しながら、それを整備内容に反映させていく形で史跡の保存活用を図っていければと思う。また、何度も来てもらえるような施設整備を検討する必要があり、見て学ぶだけではなく、体験して学べることが大切。そういった活用のために必要な整備がどういったものか、よく考えなければならない。

○委員

史跡広場でガイダンス施設を作る場合には、情報発信の場だけでなく、調査研究の場としても継続していくことや、それらを体験できる仕組みが必要だと思う。

○委員長

学校の子供も達が体験発掘に参加したり、過去の調査で発見された貝殻などの遺物を改めて分析するなど、体験学習プログラムもいくつかできると思う。

○委員

“学習”以外にも、貝蒸し体験を実施して、そこで食べた貝殻を「新たな貝塚」ということで段々と捨てていくような活動も、おもしろいと思う。

○委員

飛鳥山博物館から西ヶ原、御殿前と歩いて行って、台地から崖下に下りて中里貝塚まで歩くコースは、まさに縄文時代の人々が貝を取りに行った道を歩くことになり、「今から縄文人になって浜辺に下りていきましょう」という散策ルートになると思う。

○オブザーバー

中里貝塚周辺では、江戸時代にも貝殻を利用した胡粉などの産業が盛んだったので、そういった産業の変遷についても価値の中に追加して、地域の成り立ちなどを学ぶための1つの素材としてはどうか。

5. その他

※事務局から、次回委員会の日程について説明。

6. 閉会

以上